



広島西ロータリークラブ会報

THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA WEST

No.
1972

例会日・木曜日 12:30~13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 中村 哲朗
幹 事 森信 秀樹

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail: hwrc@godorc.gr.jp
広島西ロータリー <http://www.hwrc.jp/>

RIテーマ THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS
「ロータリーの未来は
あなたの手の中に」

本年度会長テーマ
「ロータリーの心で周囲を包もう」

「世界理解月間」

2010年2月25日 第1948回例会

◆ 会長時間 ◆

中村(哲)会長



2月21日の日曜日に、みずとりの浜公園内のトイレ竣工式と併せて30周年記念事業で広島県に寄贈した植樹に施肥を行う行事が開催されました。広島県広島港湾振興事務所の

村上所長他5名の県職員の方々、地元町内会長、なぎさ中学校・高等学校の校長先生、そして何よりも44名という多数の会員にご出席頂き、にぎやかに竣工式を開催することができました。皆様方に心より感謝申し上げます。竣工したトイレは、周囲の景観にマッチしており、今後公園に遊びに来られる家族連れ、朝晩散歩される高齢者や近隣の方々に安心して公園内を楽しんで頂けるものと確信しております。また今回施肥をいたしましたので、ソメイヨシノを中心とする樹木が成長していくものと思います。広島西RCの過去に行われた記念事業の流れを含め、今回の記念事業を「意義ある業績賞」に挑戦するべく森信幹事、岡田担当理事を中心に最終準備に入っております。

さて当クラブの創立40周年記念例会・式典・祝賀会がいよいよ近づいて参りました。それぞれの

行事の細かい準備については、安部企画調整委員長を中心に進めて頂いており、ご関係の皆様時間に割いて頂いております。本日の例会で各部会において企画しております内容の説明があります。本日の説明を十分聞いて頂き、当日の対応、特にご来客への心配り、気配りを会員全員で行い、雰囲気の良い40周年行事となるよう会員の皆様をお願いいたします。

本日は、3月6日の創立40周年記念例会で正式入会される3名の方々とご夫人をご招待しております。我々の仲間として心より歓迎申し上げますとともに、これからロータリー活動を一緒に出来ることを楽しみにしております。

青少年交換受入学生

Tayler Michelle STEVENS さんに誕生日
(3月3日) 祝い贈呈



●会務報告

森信幹事

※次週例会は4日を6日(土)に変更して創立40周年記念式典及び祝賀会となっておりますので、お間違えのないようお願いいたします。

※先週例会でお願いしておりましたハイチ地震被害義援金について、42,320円を広島市に送金いたしました。ご協力ありがとうございました。

●委員会報告

出席報告 竹本委員

本 日 (2月25日・木曜日)

会員数 84名 出席者 66名

欠席者 18名 ご来客 2名

ご来賓 0名 ゲスト 12名

計 80名

前々回(2月4日・木曜日)

出席率 100%



※ 諏訪パストガバナー



ご 報 告

シカゴR C交渉キーパーソン 諏訪 昭 登ガバナーの任期が終っても、依然として忙しいスケジュールに追われている現状にあります。本日はそれとは別に、当クラブ創立40周年記念関連のご報告を致します。ご承知の通りシカゴR Cは、ロータリーの創設者ポール・ハリスによって1905年創立された最初のロータリークラブです。ROTARY/Oneと呼称して、世界33000のクラブにとってマザークラブと位置づけられています。

私が1997年に偶々シカゴR C例会に出席したことから先方会員との交友が始まり、そのご縁で当クラブ創立30周年に当り、お祝いのプラークと会長メッセージを贈ろうというシカゴR Cからの友情ある申し出がありました。

当クラブ1999年11月理事会での審議のうえ、今後お互いに友好クラブとして名乗り合うことを決議して、送られて来たお祝いを式典当日披露

致しました。

35周年にもお祝いのメッセージが届けられ、ロータリー創立100周年即ちシカゴR C創立100周年記念式典への招待状をいただいたことで、小生と河野さんがシカゴへ当クラブ代表として列席しました。

世界から東京西R C (姉妹クラブ) と広島西R C (友好クラブ) だけが招待されていたことを光栄に思い、大変感激したことでありました。今回の40周年に対して30周年同様に、先方から自発的に記念プラークとお祝いのメッセージを贈るという申し出があり、ここに到着しております。



3月6日の式典において参加の方々に披露するに先立って、クラブの皆様にご本日披露しようとの中村会長のご意向により、唯今から回覧しますのでご確認のほどお願いします。

なお2月23日、シカゴR C創立105周年へは、当クラブよりお祝いのメッセージが送られたことを申し添えておきます。

※ 米山奨学委員会 梅田委員長



ハイライト米山

「中国学友会総会 in上海のご案内」

本日皆様のBOXに、本年1月発行のハイライトよねやま119のコピーが入っていますが、この中で、昨年3月発足した中国学友会の総会が今年は7月17日に上海で開かれ、総会後の懇親会に多くのロータリアンをお迎えして交流を深めたい、と参加のお誘いの記事が載っていますので、お読み頂きますようお願い致します。

※ 梶本姉妹クラブ(創立40周年記念行事)委員長
創立40周年台南R C関係行事について



※ 安部企画調整(創立40周年記念行事)委員長
創立40周年記念式典について



※ 斉藤企画調整(創立40周年記念行事)副委員長
創立40周年記念祝賀会について



※ 次年度金本幹事

例会終了後、22階「キャッスルビュー」において次年度クラブ協議会を開催いたしますので、メンバーは出席願います。

● 同好会報告

紫友会 荒川世話人

2月20日(土)、周南カントリークラブにて2月例会が行なわれました。成績は以下の通りです。

優勝 田戸君 ^{トータル}97 ^{ネット}76.3 ^{アウト}44 ^{イン}53



準優勝 木本君 87 77.1

第3位 鈴木君 84 79.5

シニア優勝 梶川君

ベストグロス 上田君 78

B. B. 藤田君

次回例会は3月13日(土)、広島ゴルフクラブ鈴ヶ峰コースで行ないます。

🗓️ ご入会記念月おめでとうございます。

(8名)

簗 君 (H15年) 中丸君 (H16年)
岡田君 (H17年) 梶本君 (H17年)
柴田君 (H18年) 原 君 (H18年)
小田君 (H21年) 香川(浩)君(H21年)

🌸 創業月おめでとうございます。

(4名)

教蓮君 加茂川グループ
上野君 (有)石亭
西原君 (株)西原製作所
古本君 株式会社 古本建築設計



奥様お誕生日おめでとうございます。

(11名)

小島君 明子夫人 (2日)
日域君 祐子夫人 (4日)
坂田君 玲子夫人 (5日)
池田君 英子夫人 (7日)
竹本君 初枝夫人 (8日)
小橋君 裕子夫人 (9日)
上田君 美智子夫人(11日)
岡田君 則子夫人 (13日)
武田君 睦枝夫人 (18日)
堀江君 昭恵夫人 (23日)
山木君 路子夫人 (26日)

👑 1月決算月おめでとうございます。

(3名)

笹野君 おおたけ(株)
井原君 (医)井原クリニック
中岡君 (株)ナカオカ



■ 卓 話

国際奉仕部門

理事 梶本 政明 会員

2月は世界理解月間です。当クラブにおいての国際奉仕活動について、1部は鈴峯学園の西村先生・吉川先生・鈴峯学園生徒の卓話を、2部は世界社会奉仕委員会と国際交流委員会からのアンケートに回答をいただき、現状の問題点と今後の委員会活動の参考資料とさせていただきます。

バングラデシュ プレススクール

山本 真帆さん



私は去年のこの時期に、バングラデシュへ海外研修に行きました。

最初、この研修へ行こうか行くまいか、正直本当に悩みました。事前学習はしていたものの、自分たちにとって異国の地であり、どんな国なのか、想像するだけでも不安になりました。しかし、このチャンスを逃してはいけないと思い、行くことを決めました。

そうやって期待や不安を抱えながら向かったバングラデシュ。私はこの国で、たくさんの衝撃的な光景を目にしました。

空気や水の色が澄んでいないこと、年齢を問わず、様々な人が物乞いをしていること、貧富の差が激しいことなど、日本ではありえないことが次々と目に入ってくるのです。

今まで自分たちがテレビの中でしか見たことがなかった光景が、実際に自分たちの目の前に広がっていることに、ただただ驚くばかりでした。

そして、もう一つ驚くことがありました。

それは、私たちがバスに乗っていた時のことです。日本人が珍しいのか、外からたくさんの人が私たちのことを見ていました。

最初は不思議そうに見ていた人々も、次第に手を振ってくれるようになり、最終的にはすれ違う人みんなが手を振ってくれる村もありました。

見ず知らずの私たちに手を振ってくれるということは、私たちを受け入れてくれたということだと思います。

ささいなことかもしれませんが、これは日本ではなかなか見られない光景だと思いました。バングラデシュの人々の温かさを感じ、心をかよわせることに国境は関係ないということを、改めて学びました。

そして、あと一つ、学んだことがあります。それは、「本当の幸せ」についてです。

バングラデシュにある日本大使館に行った時、バングラデシュの人は自分たちが世界でいちばん幸せだと思っている、という話を聞きました。

他の世界のことを知らないのに、自分たちの生活が一番良いと思っていて、食べるものも着るものも住む所もあって、家族もいるのに、他に何が必要なんだ、と言われた時、本当に、その通りだと思いました。

今、私たちの身の周りには充分、物が満ち足りているのに、自分たちの生活に満足できていない人はたくさんいると思います。

そんな時こそ、自分たちに本当に必要なことは何か、本当の幸せとは何か、考えてみるべきだと思います。

私はこの研修を通して、たくさんのことを学びました。今回得たものを少しでも多くの人に伝えていこうと思います。



大塚 唯奈さん

私はこの春、生まれて初めて海外に滞在しました。場所はバングラデシュ。私はその土地で、衝撃的な経済格差の

実態を目にしました。そこに広がっていたのは、決してテレビの中の映像ではなく、現実の世界でした。私の世界に対する視野はなんと狭かったのだろう、そう痛感しました。事前にバングラデシュについて、少しは学んでいたものの、実際に目に映る光景はまさに、「百聞は一見にしかず」というものでした。豊かな人々はリゾート地のホテルで食事をしているのに対して、住む家も無く、物乞いをしなくては食べるものもない、その日を生きていくことが精一杯な貧しい人々、格差の深い溝を形にして突き出された気分でした。そこで私は、「国際協力」が重要であり、そのためには、世界中が手をとり合うべきだと考えました。私がこのような考えに至った背景は、次の通りです。

私たちの通う鈴峯女子高等学校の特別進学コースでは、毎年研修旅行として、バングラデシュを訪問します。そこで過した日々の中で最も私の心に残ったことは、本校のインターアクトクラブが支援している「スズガミネスクール」を始めとする多くの学校を訪問したこと。私達が普段生活している学校とは大きく違い、ノート一冊、鉛筆一本から価値観の異なる環境にとっても驚かされ

ました。私達が日本から寄付するために持っていたノートや鉛筆をその学校の子供たちに手渡すと、まるで宝物を持つように大切にそれらを握り、本当に嬉しそうに「ありがとう」と感謝の意を示してくれました。彼らの様子から大きな喜びが伝わってきました。あんなにきらきら輝く瞳を私はそれまで見たことがありませんでした。日本の子供たちも勿論、ノートや鉛筆を貰ったとしたら喜ぶでしょう。しかし、その喜びの度合いは、決してバングラデシュの子供たちと同じではありません。なぜなら、価値観が全く違うからです。日本では、ほとんどの場合、ノートや鉛筆は簡単に手に入るでしょう。ですが一方で、バングラデシュの子供たちにとっては、それらを手に入れることはとても難しいのです。現に彼らは授業に小さな黒板を持って臨んでいました。授業の内容を書き記し、手元に残しておくことはできないのです。こういった場所にも国内的ではありませんが、経済的な格差が広がっていると思いました。ですが、これは何もバングラデシュだけに起こっていることではありません。勉学に励みたいと思っても、それができない環境にいる恵まれない子供たちは他国にも多く存在しているのです。

私にはもう一つ今回の研修旅行で深く心に残っていることがあります。私はこの研修中に体調を崩し、移動中や研修中によく座りこんだり、伏せたりしていました。そうすると必ず仲間や先生、旅行に付き添ってくれた現地の方や道行く人々、偶然飛行機に乗り合わせた人までもが「大丈夫か。」「薬は持っているか。」など、多くの温かい言葉を私にかけてくれました。見ず知らずの他国の人間である私に、です。その度に私の胸には暖かい風が吹くようで、いくらか気持ちが楽になりました。多くの人に迷惑をかけ、大変申し訳なかったのですが、このおかげで得られたものもありました。それは、「人を思いやる心に国境はない」ということを知ったことです。もし、この気持ちが世界中の人々の心の中にあれば、すべての国の人が手を取り合い「国際協力」の元で世界が共存していくことも可能であるとは思わないでしょうか。

前記のように、私はバングラデシュに行って、経済的な格差と言うものを感じてきました。この

大きな問題を解決することは、非常に困難なことです。そこで、バングラデシュの国だけがこの問題を解決するために努力するのではなく、「国際協力」によって国を発展させていくことが重要な鍵となるのではないかと私は考えました。そのためには、私たち一人ひとりができることを思案すべきであり、さらにそれを実行に移すことがバングラデシュの、そして世界の未来に繋がるのではないのでしょうか。

さて、では「私たち一人ひとりができること」とは一体どのようなことでしょうか。私はまず「募金」という言葉が浮かんできます。募金という言葉を知ると、ありがたきだとか、それだけで困っている人が本当に救えるのかなど、疑問や懸念を抱く人もいるかもしれません。ですが、実際に募金によって救われる人は沢山いるのです。私は先日、ある募金に参加しました。病気や事故によって親を亡くした子供たちが、募金によって集められた寄付で高校や大学へと進学し、夢を追う希望を手に入れられたこと、この募金によって助けられる命や夢があるということ。私はこの活動の中でそれらを知りました。これは、バングラデシュに居たような子供たちにも当てはめることができます。多くの募金を集め、それを恵まれない子供たちのために全て使えるのだとしたら、彼らは物資に恵まれた中に身を置くことができるかもしれません。そうなれば、もっと良い環境で勉強でき、優秀な人間が育ち、国外でも大いに活躍できる可能性が上がります。それによって、国も大きく発展できるでしょう。たとえ大金でなくとも、私たち一人一人の心持ちと勇気で、彼らの、私たちの世界は変えられるのです。私はそのために自分にできることをしたいと思います。まずは、募金活動やそれに対する呼びかけ、その活動に積極的に参加することです。私は現在、本校のインターアクト部に所属しています。この部に入ったきっかけは、バングラデシュでの体験にあります。この部に所属させていただいているおかげで、前記のような募金活動の大切さを肌で感じ取ることができましたし、多くのボランティアに参加できる機会を得ることができました。これからも様々な活動に取り組み、それがもっと多くの人の世界を支える一歩になると良いと思います。

バングラデシュという国は私に経済格差以外にも、多くのことを学び、視野を広げ、自分の世界を変えるチャンスを与えてくれました。叶うなら、滞在中に出会ったような子供たちが、書いては消す黒板ではなく、一冊のノートに思いっきり書き、思うように学べる、そんな光景が世界中で当たり前になる日が来るよう、皆で手を取り合い、未来を切り開くための努力をしていきたいものです。

2009バングラデシュ 海外研修について



西村 正美先生
吉川 将弘先生

あいさつ

概略

2009年3月15日(日)から21日(土)の7日間。今年度は燃油の値上がりの影響で例年実施してきたイギリスへの研修を取りやめた。参加したのは生徒15名、教員1名。サイフル・イスラムさんに同行していただいた。



はじめて目にするバングラデシュ

生徒がバングラデシュに到着するのは夜。翌朝あらためて自分たちがどんなところにいるのかを知る。ダッカ市内に行きかうリキシャやたくさんの人々、鳴り響くクラクションに驚く。

日々発展していく光景

バングラデシュは世界でも最も貧しい国の一つ。発展途上の国。

右上の写真のように、プロペラ機にも乗る。(トラブルもある) 右下の写真は、バングラデシュでお世話になった NGO のリーダーであるコカさんのご自宅(マンション)。玄関を入ったところにあるスペースで撮った写真だが、生徒15人が楽に入れる。貧富の差が大きいことが分かる。左上の写真はコンノフリ川に建設中の橋。初めてバングラデシュを訪れたときは枕木をわたしたようなでこぼこの橋。二回目に訪れたときは同じ橋が平らな木に整えられていた。そして今回は写真のような状態。まさに発展する様子を目の当たりにする。左下の写真は移動に利用した車。日本の企業によ

る寄付であることが分かる。

学習活動とアトラクション

右上の写真は「ミニバングラデシュ」という遊園地。バングラデシュ国内の建築物などのミニチュアが展示され、バングラデシュの風土や習俗、歴史などを学ぶことができる。

右下は、NGO 主催の夕食会。踊りや音楽を鑑賞する。

左上は UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) でのレクチャー。難民とは何か、UNHCR の役割、日本などの果たす役割について学ぶ。

左下は、在バングラデシュ日本大使館での写真。一等書記官の方がバングラデシュの現状を話してくださる。また研修の中で感じた疑問などをぶつける。

スズガミネ校などへの訪問

右上は「多山総合学院」で文房具を手渡しているところ、右下は現地の女子校を訪れ、学生たちと交流を持っている場面。

左上、左下の写真は本校インターアクト部が作ったスズガミネ校でのもの。皆様からいただいた、文房具を直接スズガミネ校の生徒に直接寄付する。生徒の、そして子供たちの表情を見ていただきたい。バングラデシュの子供たちへの直接的な援助はいうまでもないが、生徒たちへの情動的、あるいは人間的な部分への影響は計り知れない。

結び

ロータリークラブの皆様には、文具およびスズガミネ校運営費で多大なお世話になっている。バングラデシュを訪れ、生徒に大きな経験をさせられるのも、そのご協力のおかげである。海外研修については可能な限り継続していき、国際的な視野を持った、他人を思いやることのできる自立した女性を育てて生きたいと考えている。今後ともご協力をお願いしたい。



国際交流委員会と世界社会奉仕委員会が実施しました。アンケートについてはとりまとめ、後日会報にて発表いたします。

国際交流委員会 原 委員長
世界社会奉仕委員会 宇田委員長